

専門研究B
(重点推進研究)

特別支援学校(知的障害)高等部における
軽度知的障害のある生徒に対する
教育課程に関する研究

—必要性の高い指導内容の検討—

(平成22年度～23年度)

研究成果報告書

平成24年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校（以下、特別支援学校（知的障害）と記す。）における児童生徒の増加やこれに伴う学校の狭隘化、教室不足が、各自治体や学校において喫緊の課題と叫ばれてから久しい。児童生徒の増加に関しては、特に高等部に在籍する生徒の増加傾向が顕著で、その中でも知的障害の程度が軽度（以下、軽度知的障害と記す。）の生徒が増え、高等部全体の中で占めるその割合も多くなってきている。

各自治体においては、増加し続ける軽度知的障害のある生徒への対応として、高等特別支援学校を設立したり、高等学校内に分校、分教室を設置したりしているが、まだ十分であるとは言い切れない。また、学校においては、教育課程の類型化やコース制等を導入する等の工夫が見られてきているが、軽度知的障害のある生徒のための教育課程の在り方や必要な指導内容は明らかではなく、試行錯誤の状態であると言える。

高等部に在籍する軽度知的障害のある生徒の社会参加と自立を目指していくためには、学校生活から社会へつなぐ高等部における教育は重要であり、社会的及び職業的自立を目指した教育課程の検討は重要な課題である。

本書は、平成 22～23 年度に実施した重点推進研究「特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究―必要性の高い指導内容の検討―」の成果をまとめた報告書である。本研究では、全国特別支援学校知的障害教育校長会に加盟する特別支援学校のうち、高等部のある本校、分校、分教室、校舎に対して、平成 22 年度、平成 23 年度と全国調査を行い、教育課程に関する実態や各教科等の教育内容に関する実態などの調査を実施した。それらの結果の分析や、研究協力者、研究協力機関、研究パートナー校の協力のもと、軽度知的障害のある生徒に対する教育課程について検討し、軽度知的障害のある生徒に必要性の高い指導内容の提案に至ったところである。

本稿では、それらの結果や内容等について報告するとともに、この成果が今後の特別支援学校（知的障害）高等部に在籍する軽度知的障害のある生徒のための教育課程の検討及び改善の一助になれば幸いである。

最後に、本研究を推進する当たり、多大なご支援をいただいた研究協力者の皆様方をはじめ、研究協力機関、研究パートナー校、実地調査をさせていただいた特別支援学校の関係者の皆様方、そして、今回の調査の実施に関して全面的に協力、連携していただいた全国特別支援学校知的障害教育校長会並びに多くの関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

研究代表者 教育支援部総括研究員 井上 昌士

目次

| | |
|--|----|
| I 研究の背景および目的 | 1 |
| 1. 研究の背景..... | 2 |
| 2. 研究の目的..... | 2 |
| 3. 研究方法 | 3 |
| (1) 研究体制 | 3 |
| (2) 研究内容 | 4 |
| II 平成22年度の研究 | 5 |
| 1. 先行研究等の文献調査から | 6 |
| (1) 目的 | 6 |
| (2) 方法 | 6 |
| (3) 結果及び考察 | 6 |
| 2. 我が国及び米国における知的障害及び軽度知的障害の定義 | 9 |
| (1) 我が国における知的障害の定義について | 9 |
| (2) AAIDD（アメリカ知的・発達障害学会；仮訳）（2010）による知的障害の定義 について | 12 |
| (3) 軽度の知的障害の範囲についてのまとめ | 13 |
| 3. 諸外国における知的障害の定義 | 15 |
| (1) 経済協力開発機構（OECD）加盟諸国における「知的障害」のカテゴリー上の 位置付け | 15 |
| (2) OECD加盟諸国における「知的障害」の定義 | 15 |
| (3) まとめ | 17 |
| 4. 我が国における療育手帳の判定の全国状況 | 23 |
| (1) はじめに | 23 |
| (2) 療育手帳制度の概要 | 23 |
| (3) 療育手帳の判定基準等に関する調査 | 24 |
| (4) まとめ | 24 |
| 5. 特別支援学校（知的障害）高等部軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する 実態調査..... | 26 |
| (1) 目的 | 26 |
| (2) 方法 | 26 |
| (3) 結果 | 27 |
| (4) まとめ | 36 |
| 6. 平成22年度研究の考察 | 37 |
| III 平成23年度の研究 | 38 |
| 1. 特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒における各教科 等の教育内容に関する実態調査　－基礎情報編－ | 39 |
| (1) 目的 | 39 |
| (2) 方法 | 39 |

| | |
|--|-----|
| (3) 結果 | 40 |
| 2. 特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒における各教科等の教育内容に関する実態調査　－必要性の高い指導内容編－ | 46 |
| (1) 目的 | 46 |
| (2) 方法 | 46 |
| (3) 結果 | 48 |
| (4) 結果のまとめと考察 | 65 |
| 3. 特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒における各教科等の教育内容に関する実態調査　－国語編－ | 68 |
| (1) 目的 | 68 |
| (2) 方法 | 68 |
| (3) 結果 | 71 |
| (4) 考察 | 76 |
| 4. 特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒における各教科等の教育内容に関する実態調査　－数学編－ | 77 |
| (1) 目的 | 77 |
| (2) 方法 | 77 |
| (3) 結果 | 80 |
| (4) 考察 | 85 |
| 5. 軽度知的障害のある生徒に特に必要な指導内容に関する指導事例調査 | 86 |
| (1) 目的 | 86 |
| (2) 方法 | 86 |
| (3) 結果 | 88 |
| (4) 考察 | 92 |
| IV 総合考察及び今後の課題 | 100 |
| 1. 軽度知的障害のある生徒に必要性の高い指導内容の整理と分析 | 101 |
| (1) 軽度知的障害のある生徒に必要性の高い指導内容の整理 | 101 |
| (2) 学習指導要領との関連 | 102 |
| (3) 「必要性の高い指導内容」の教育課程上の位置付けと実施上の工夫 | 104 |
| (4) 専門的対応のポイント | 105 |
| 2. 今後の課題 | 106 |
| (1) 「必要性の高い指導内容」をどう教育課程に位置付け、実践していくか | 106 |
| (2) 軽度知的障害のある生徒に対する生徒指導に関する指導内容及び方法の検討 | 106 |
| (3) 学習評価に関する研究の必要性 | 106 |
| V 研究協力機関、研究パートナー校の実践報告 | 107 |
| 一般就労を目指す軽度知的障害生徒の作業学習を中心とした教育課程の工夫及び課題について | 108 |
| 産業現場等における実習の評価を教育課程に反映させる取り組み | 116 |
| 軽度知的障害のある生徒が多く在籍する類型における教育課程の工夫と課題 | 125 |

| | |
|---|-----|
| 職業自立と社会参加に向けた教育課程とその取組 | 132 |
| 軽度知的障害のある生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の工夫 | 140 |
| 知肢併置校における軽度知的障害のある生徒の教育課程づくり | 150 |
| 高等学校内分教室の教育課程編成及び実施上の工夫と課題..... | 158 |
| 《資料》 | 165 |
| 資料 1 全国都道府県及び政令指定都市における療育手帳の判定基準等の状況（平成 22年11月現在） | 166 |
| 資料 2 平成 22 年度 特別支援学校（知的障害）高等部軽度知的障害のある生徒に対 する教育課程に関する実態調査 インターネット上の回答記入フォーム | 173 |
| 資料 3 平成 22 年度 特別支援学校（知的障害）高等部軽度知的障害のある生徒に対 する教育課程に関する実態調査 ー単純集計結果ー | 178 |
| 資料 4 平成 23 年度 特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある 生徒における各教科等の教育内容に関する実態調査 インターネット上の回答 記入フォーム | 186 |
| 資料 5 SPSS Text Analytics for Survey を用いた自由記述回答の分析 | 194 |
| 参考資料 1 スウェーデン調査報告 | 196 |
| 参考資料 2 アメリカ調査報告 | 202 |

